

# 東京合唱協会 東京21世紀管弦楽団

未完成、未修正のまま今に至った  
交響詩《フィンランディア》の完成稿(合唱付き) **世界初演!**

シベリウス作曲:

**フィンランディア** 作品26 (合唱付き)

ベートーヴェン作曲:

**交響曲第9番**

**「第九」** (合唱付き)

4楽章冒頭のバリトンの真の叫び(真の訳)!

お~友よ!こんな(最悪な封建的)世の中を拒絶しよう!

そうではなく、もっと(自由平等で)暮らし易い世の中に**変革**しよう!

そして、喜びに満ち溢れて(シラーの詩の世界に共に・・・)、Freude!

指揮  
**内藤 彰**

Conductor : Akira Naito



嘉目真木子  
(Sop)

向野由美子  
(Alto)

工藤和真  
(Ten)

星野 淳  
(Br)



2022

**9/8** 木 19時開演  
18時開場

**東京芸術劇場  
コンサートホール**

チケット料金: S席: 7,000円 A席: 5,500円 B席: 4,000円 学生席(大学生以下) 2,000円  
全席指定(税込み)

チケットのお求めは

- 日本アーティストチケットセンター TEL 03-5305-4545
- 東京芸術劇場Box Office TEL 0570-010-296 (ナビダイヤル 休館日を除く10:00~19:00)
- チケットぴあ(Pコード: 221-390) <https://t.pia.jp/>
- イープラス <https://eplus.jp> ● ローソンチケット(Lコード: 34163) <https://l-tike.com>

\*未就学児のご入場はご遠慮ください。 \*やむをえず出演者、曲目が変更になる場合があります。 \*車椅子席をご希望の方は、日本アーティストチケットセンターへお問い合わせください。

主催: (株式会社) 東京合唱協会

■お問い合わせ 東京合唱協会 [info@tokyo-gk.jp](mailto:info@tokyo-gk.jp)

## 第九の真意

内藤 彰

人類の自由平等を説くベートーファン(ドイツでの正しい発音)は、ナポレオン失脚後のウィーン会議で急速に復権した、旧特権階級による不平等で厳しい封建制度の世の中の突然の出現に怒り、フランス革命時の理念復活を願って、まず第4楽章冒頭でその最悪な世を、特別汚い音の塊から成るファンファーレで表現した。続くチェロ・バスのレシタティーヴォでは、そのために彼が用意した“絶望”という言葉が背景に、その最悪な封建制度を粉砕するため、難易度の高い旋律を書き、それを物凄く速いテンポのまま演奏し、粉砕するよう総譜に注意書きをしてまで強制した。その後、その信念をバリトンに言葉で強く訴えさせたのが、チラシの表面に書かれた主張である。ところが今まで、彼が何を主張するためにファンファーレやレシタティーヴォを、あのような異様な形態で書いたのか、その真意は多くの人にとって全くの謎であった。当然その重要なポイントが謎のままでは、次に来るバリトンのレシタティーヴォの中でも一番大切な単語 *anstimmen* が、辞書に載っている多くの訳し方の内、どれに相当するかを判別することは不可能であった。しかしこのレシタティーヴォが、第4楽章の冒頭から始まる、ベートーファンの心の底からの怒りと自由平等への願いを、バリトンに託したものであるということさえ理解出来れば、容易にその意味が抵抗する、変革する等であることが解かる。しかし彼の真意が謎のままであったがため、今まで彼の主張とは全く無関係な“歌い始める”が選択され、さらに誤訳が重なった結果、“心地良い歌を歌おう”と、彼の強い願望とは無縁の訳し方が正しいとされてきた。今宵の演奏では、それを正し、「旧特権階級による極端に不自由・不平等な世の中を断固拒絶し、自由・平等・友愛の世界を目指し、共にシラーの詩の世界に・・・」と、ベートーファンの真の想いを表現する。(https://naito-conductor.com の「超名曲の常識を斬る」の第2章に詳細)



### 内藤 彰 (指揮) Akira Naito (Conductor)

名古屋大学理学部在学中より指揮を山田一雄氏に師事。桐朋学園大学研究科(現大学院)指揮専攻にて、秋山和慶、尾高忠明各氏他に師事し、修了後(社)山形交響楽団の専属指揮者を務めた後、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。1990年東京ニューシティ管弦楽団(現パシフィックフィルハーモニア東京)を創立、以来30年音楽監督を務める。海外では、1991年ベオグラードフィルを皮切りに、モスクワ管弦楽団(ロシア国内の交響楽団)、ロシアやベラルーシの国立歌劇場、メキシコ国立響、同国立響、他ハンガリー、ブルガリア、ルーマニア、フィンランド、イタリア他の楽団の定期公演等に客演してきた。歌劇「蝶々夫人」公演では、初演以来約20年の代りに戻って中国の銅鑼が鳴らされてきた等、数種の日本の伝統の鐘を、ブッチェーニの意図通り音程を持つ楽器として特注、世界で初めて作曲者の願う「蝶々夫人」公演に成功した。それらはイタリアのブッチェーニ・フェスティバルにおいても使用され、新聞・テレビで大きく取り上げられた。現在はこれら者の音がコンピュータに取り込まれ、希望劇場に無料で貸し出されている。ブルックナーの交響曲第8番のAdagio楽章をはじめ、4番〜9番の新稿の世界初演を果たし、特に5番、6番では版の違いのみならず、ブルックナーの意図とは大きく乖離した伝統的テンポ等を根拠を示し修正。驚くべき画期的な演奏と「レコード芸術」誌などで高く評価され、ロンドンのブルックナー・ジャーナル誌では、アメージングという表題で2度に亘って大きく取り上げられた。また、楽譜に多くの誤りが野放しになっていたドゥヴォジャークの「新世界から」と、シベリウスの「フィンランディア」を正し、3カ国語の詳細な校訂文とその根拠を示した世界初の改訂版を出版した。著書「クラシック音楽 未来のための演奏論〜くつがえるオーケストラ演奏の常識!〜」を毎日新聞社より出版し、斯界に大きな反響を呼びおこした。プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、パシフィックフィルハーモニア東京創立指揮者、日本指揮者協会幹事。



### 嘉目真木子 (ソプラノ)

Makiko Yoshime (Soprano)

国立音楽大学大学院修了。文化庁海外研修員として渡伊。東京二期会「魔笛」パミーナでオペラデビュー以降、さまざまなプロダクションに「フィガロの結婚」「スザンナ/伯爵夫人」「ドン・ジョヴァンニ」「ツェルリーナ/ドナ・エルヴラ」「パリアッチ(道化師)」「ネッダ」「こうもり」「ロザリンデ」「魔弾の射手」アガータ、「金閣寺」女/有為子、「カルメン」ミカエラ、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ、「メリー・ウィドー」ハンナ、「椿姫」ヴィオレッタ役で出演。コンサートソリストとしては、ベートーヴェン「第九」「合唱幻想曲」、フォーレ「レクイエム」、ハイdn「四季」、エルガー「神の国」等で出演。その他、NHKニューイヤーパーラコンサート、NHK-FM1サイタル、NゴアやBS日テレ「歌に恋して」等メディアにも出演。二期会会員。



### 向野由美子 (メゾ・ソプラノ)

Yumiko KOHNO (Mezzo soprano)

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。在学中より、宗教曲のソリストとして活躍。パッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、ベートーヴェン「第九」、マーラー「復活」「大地の歌」、ヴェルディ「レクイエム」他、多数のパッハカンタータソリストを務める。オペラでは「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ、デスピーナ、「ナブッコ」フェネーナ、「カルメン」カールメン等演じる。2005年「ラ・チェネレントラ」ティスベ役で藤原歌劇団デビュー後、同歌劇団公演「蝶々夫人」スズキ、「椿姫」フローラ、「フィガロの結婚」ケルビーノ、「カプリチオ」とモンテッキ「ロメオ」等に好評を博し、その後も同歌劇団公演の出演を続けている。藤原歌劇団団員。



### 工藤和真 (テノール)

Kazuma Kudo (Tenor)

岩手県出身。東京藝術大学卒業。同大学院修了。声楽を小原一穂、佐々木朋也、市原多朗各氏に師事。第84回日本音楽コンクール声楽部門第2位。第53回日伊声楽コンクール第1位、及び歌曲賞(岡部多喜子・斎藤子賞)を受賞。第17回東京音楽コンクール声楽部門第2位(最高位)、及び聴衆賞を受賞。オペラではマスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッットゥでデビューを果たした。これまでに「椿姫」アルフレード、「トスカ」カヴァラドッシ、「魔笛」タミーノなどで出演。東急ジルベスターコンサート2019-2020ではベートーヴェン(交響曲第九番)テノールソリストとして出演。テレビ番組への出演やポピュラー曲のカヴァーライブを行うなどクラシック以外にも幅広いジャンルで活動する。



### 星野 淳 (バリトン)

Jyun Hoshino (Bariton)

北海道大学理1を経て、北海道教育大学札幌分校特設音楽科を卒業。二期会オペラスタジオ第34期研究生修了、優秀賞を受賞。平成4年度芸術インターンシップ研究生。新国立劇場には1997年のオープニング公演「建・TAKERU」以来40公演に参加。「カルメン」「セビリアの理髪師」「道化師」「蝶々夫人」「トリスタンとイゾルデ」「ヴォツェック」「ペレアスとメリザンド」「夕顔」「光」「愛怨」「黒船」「沈黙」「鹿鳴館」等に多数出演。二期会オペラには「学生王子」「ジャンニ・スキッキ」「コジ・ファン・トゥッテ」「ダフネ」「こうもり」「ヘンゼルとグレーテル」「金閣寺」の他、「メリー・ウィドー」では二度ダニロで主演。二期会会員。

## 東京21世紀管弦楽団 Tokyo 21c Philharmonic Orchestra

音楽を通して、多くの人たちと手を携へ、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して、演奏活動を進めていくオーケストラ。これまでに2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップの日本公演、オペラ界のビッグスター、テノールのファン・ディエゴ・フロレスの日本公演に出演し、好評を博した。浮ヶ谷孝夫(ブランドンブルク国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、2020年度は東京芸術劇場で定期演奏会を行い高評を博す。このほかバレエやポップスにも出演するなど活動の場を広げている。

## 東京合唱協会 Tokyo Choral Society

1984年、音楽監督に内藤彰を擁し、オペラや様々なコンサートでソロ活動をしている声楽家を中心に結成された。これまで定期演奏会、各地での特別演奏会、ファミリーコンサート、第九公演等の他、文化庁からの依頼公演を始め、年間数十回の学校公演を行っている。その他NHKFM、学校放送、教育用CDの録音、他多数のTV番組に出演。また、バイエルン国立歌劇場日本公演の合唱に30名がエキストラ出演し、同歌劇場からその高い歌唱力を絶賛された。オーディションで入団した団員たちは、その後日本音楽コンクール等各種のコンクールに入賞、または国内外の歌劇場でソリストを務めるまでに至る一方、合唱団員として、アンサンブルに必須のノンヴォイブラート唱法にもチャレンジする等、各自の合唱団員としての重要な職責を真摯に果たしている。近年は文化庁からの依頼公演に於いて高い評価を得ている。今冬は「懐かしい日本の抒情歌」と銘打ち、管弦楽と混声4部合唱に編曲した、日本人なら誰でも知っている懐かしい抒情歌の数々を、各地でお贈りする。

## 東京合唱協会(指揮:内藤彰)《懐かしい日本の抒情歌》管弦楽と混声4部合唱による

12月14日(水)14時 東大和ハミングホール/12月19日(月)14時 保谷こもれびホール/12月20日(火)14時 松戸森のホール21/12月25日(日)14時 ルネ小平/12月26日(月)19時 北とびあ\*管弦楽:東京21世紀管弦楽団(14日・19日・20日)パシフィックフィルハーモニア東京(25日・26日)

連絡先:東京合唱協会 info@tokyo-gk.jp